

★ グラ サン 御座山の植物採集

池田 登志男

第113回例会は昭和61年6月14日(土)・15日(日)、南佐久郡北相木村の御座山とその周辺で行われた。参加者は当日参加も含めて、井波一雄、小口好久、尾台喜貞、中沢袈裟延、花里弘、古谷義人、堀米富平、小林春雄、中山冽、山崎博、森泉恒男、望月精一、幹事の池田登志男の13名、そのほかに佐久教育会から5名の計18名であった。

第1日目。小海駅に午後2時集合、冬の氷の滝で有名な三滝へ向かった。車から降りて滝まで10分ほどの山道であるが、その間に見られた主な植物は、チドリノキ、メグスリノキ、オオモミジ、オニイタヤ、ミズキ、ケヤキ、ウワミズザクラ、トチノキ、サワラ、カツラ、キハダ、タラノキ、フジ、ヤマアジサイ、ミヤマカタバミ、ハヤザキヒョウタンボク、ヤマツツジ、ハウチワカエデ、ミツデカエデ、ホソエカエデ、ウラゲエンコウカエデ、ヒメウツギ、スグリ、バイカウツギなどの林の中に佐久で比較的珍しい草本類として、ジャク、ヤマブキソウ、ヒメレンゲ、ユリワサビなどが見られた。午後5時ごろ宿舎の相木荘に戻り標本整理などして、夕方着いた人たちを迎えて懇親会をしながら夕食。明日に備えて早く寝る人、夜遅くまで植物談議をする人など。

第2日目。当日参加者を迎えて数台の車に分乗して1200 m付近まで車で登り、8時半ごろから頂上を目指して歩き始める。1500 m近くまではカラマツの植林地と雑木林でミズナラ、オオバアサガラ、アサノハカエデ、ハウチワカエデ、コハウチワカエデ、モトゲイタヤ、ヒナウチワカエデ、オガラバナ、テツカエデ、コミネカエデ、カジカエデ、ウリハダカエデ、メグスリノキ、ヒトツバカエデ、カツラ、サワラ、ウワミズザクラ、ミヤマザクラ、シウリザクラ、ウラジロモミ、アサダなどの高木の下に、サラサドウダン、クロイチゴ、クマイチゴ、ミヤマニガイチゴ、ミヤマウラジロイチゴ、アイズシモツケ、ザリコミ、バイカウツギ、ニシキウツギ、トウゴクミツバツツジ、クロカンバ、スズタケなどの低木、草本ではコミヤマカタバミ、コキンバイ、ミヤマアキノノゲシ、トモエソウ、ミヤマワラビ、ユキザサ、フタバアオイ、ズダヤクシュ、クリンユキフデ、ウバユリ、ハンショウヅル、コンロンソウ、ヤナギラ

ンなどが見られる。

1500 m付近からコメツガ林が見られ、ダケカンバ、サワラ、カツラなどがあり1800 m付近からシラビソも目につく。

この地帯の主な植物としては、フジシダ、レンゲショウマ、カニコウモリ、センジュガンピ、クルマユリ、ミヤマカラマツ、イチヨウラン、キョタキシダ、イワノガリヤス、イワカガミ、キンレイカなど。

フジシダは1600 mあたりのサワラの林の中に群生しているが、佐久での分布は、ここ以外には確認されていない貴重なものである。

1800 m近くに「力水」という、わずかに水の出ている水場がある。この登山道で最後の水場である。あたりには、ツバメオモト、ハクモウイノデ、シノブカグマ、クロクモソウ、ツルネコノメ、マルバネコノメなどが目につく。

頂上手前の鞍部に着いたのは11時半過ぎ、一息入れて頂上へ向かう。調査し記録しながら登っても頂上まで30分たらずである。この辺から頂上にかけての主なものは、アズマジャクナゲ、ウラゲハクサンジャクナゲ、コメツガ、クロベ、ネコシデ、トウヒ、カラマツ、ハコネコメツツジ、ミネヤナギ、シライヤナギ、コケモモ、ヒメスミレサイシン、ウラジロヨウラク、シモツケ、トウキ、ウスユキソウ、ヒメスゲ、ヒモカズラ、ヤハズハハコ、ショウジョウスゲ、ミヤマウラボシ、フクロシダ、イワカガミ、キンレイカ、ホツツジなど。

頂上に着いたのは正午過ぎであった。梅雨期の例会で雨が心配であったが、2日間好天に恵まれ、関東の山なみ、佐久の山々を望みながら山頂の岩場で楽しく昼食をとり、採集や写真撮影をして1時間ほどを過ごし、午後1時、頂上を後にして下山を始めた。帰り道も熱心に採集や記録をする人が多く三三五五下ったが、1300 mあたりの道端にシウリザクラの大木が花をたくさんつけているのを見つけ登って枝を採り、カメラに収めたりしている間に全員がそろい、標高1200 mの、朝、車を置いた場所に3時ごろ着き、相木荘に戻って4時解散、各自、家路に向かった。